

## 再評価結果（平成23年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課  
担当課長名：三浦 真紀

事業名 <small>はこだてしんそとかんじょう</small> 函館新外環状道路（一般国道278号） <small>くうこう</small> 空港道路	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 北海道開発局			
起終点 自：北海道 <small>はこだて</small> 函館市 <small>ききょう</small> 桔梗町 至：北海道 <small>はこだて</small> 函館市 <small>かみゆのかわ</small> 上湯川町	延長 10.0 km				
事業概要 函館新外環状道路は、函館市の都市環状を形成する延長約15kmの地域高規格道路であり、北海道縦貫自動車道、函館新道及び函館江差自動車道と一体となって広域交通ネットワークを形成するものである。 このうち空港道路は、函館インターチェンジから空港インターチェンジに至る延長約10kmの区間で、函館市内の交通混雑の緩和、函館空港へのアクセス向上等を目的とした道路である。					
H19年度事業化	H18年度都市計画決定	H20年度用地着手	H21年度工事着手		
全体事業費	約639億円	事業進捗率	9%	供用済延長	0.0km
計画交通量	15,100～28,400台/日				
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.9 (残事業) 2.2	総費用 (残事業)/(事業全体) 446/501億円 (事業費：418/473億円) (維持管理費：28/28億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 966/966億円 (走行時間短縮便益：780/780億円) (走行経費減少便益：122/122億円) (交通事故減少便益：64/64億円)	基準年 平成22年	
感度分析の結果 残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C=2.5(交通量+10%) B/C=1.9(交通量-10%) 事業費変動：B/C=2.0(事業費+10%) B/C=2.4(事業費-10%) 事業期間変動：B/C=1.9(事業期間+20%) B/C=2.3(事業期間-20%)					
事業の効果等 定性的な効果 ①交通混雑の緩和 ・並行区間である産業道路の交通混雑の緩和が期待される。 ②交通事故の低減 ・並行区間である産業道路の交通事故の削減が期待される。 ③空港へのアクセス向上 ・函館空港へのアクセス向上が期待される。 ④バス路線の利便性向上 ・主要バス路線となっている産業道路のバスの利便性・安全性向上が期待される。 ⑤新幹線駅及び沿線観光地へのアクセス向上 ・北海道新幹線（仮称）新函館駅及び空港道路沿線の観光地へのアクセス向上が期待される。 ⑥地域経済の活性化支援 ・函館臨空工業団地への企業誘致、函館国際水産・海洋都市構想の推進が期待される。 ⑦農水産品の流通の利便性向上 ・七飯町のカーネーションや知内町のニラの函館空港からの空輸の効率化が期待される。 ⑧高次医療施設へのアクセス向上 ・産業道路沿線の高次医療施設及び湯ノ川近傍の病院への救急搬送時における迅速性・安全性の向上が期待される。 ⑨CO2排出量の削減 ・当該道路の整備により自動車からのCO2排出量が削減される。					
関係する地方公共団体等の意見 地域から頂いた主な意見等： 函館市など2市9町首長などで構成する北海道渡島総合開発期成会等より、早期整備の要望を受けている。					

知事の意見：

函館新外環状道路は、函館ICから函館空港ICを經由し国道278号に至る地域高規格道路であり、交通混雑解消や物流の効率化、函館空港へのアクセス向上を図ることにより、道民生活の向上や経済・社会活動の活性化に寄与することから、当該事業の継続については異議はない。

なお、事業の実施にあたっては、平成18年4月4日付け都計第2号「函館圏都市計画道路1・4・3新外環状線環境影響評価準備書の知事意見について」において送付した平成18年3月30日付け環政第1825号「函館圏都市計画道路1・4・3新外環状線環境影響評価準備書について」の知事意見を遵守するなど環境に配慮するとともに、都市計画に沿って整備を図ること。また、徹底したコスト縮減により総事業費の圧縮を図るとともに、これまで以上に効率的・効果的に執行し、早期供用を図ること。

事業評価監視委員会の意見

当委員会に提出された再評価原案準備書の対応方針については、北海道開発局案を妥当と判断するが、今後は以下に留意されたい。

- ・公共交通機関へのアクセス向上等の効果について、可能なものは評価するよう努めること。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・平成21年10月、北海道縦貫自動車道の八雲IC～落部IC間が開通。
- ・平成21年11月、函館江差自動車道の北斗中央IC～北斗富川IC間が開通。
- ・平成27年度末の完成をめざし北海道新幹線新青森駅～新函館駅間の整備を推進中。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成19年度に事業化され、用地進捗率14%、事業進捗率9%となっている。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

引き続き、早期供用に向けて事業を進める。

施設の構造や工法の変更等

擁壁工の見直しによりコストの縮減を図っている。

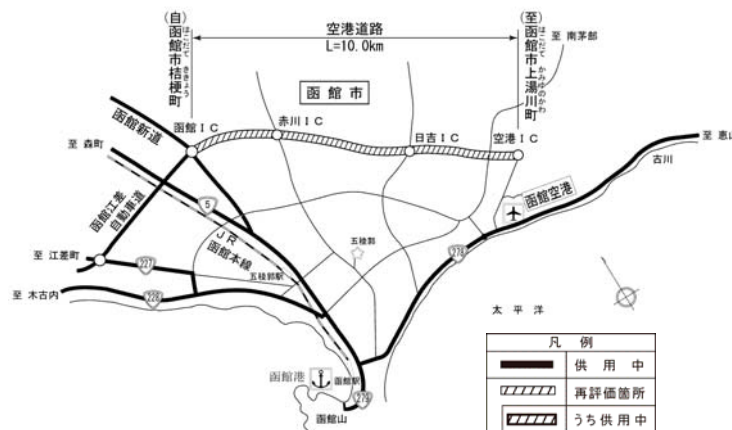
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

事業の必要性・重要性は変化なく、費用対効果等の投資効果も確保されているため。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。